

日本鉄鋼協会記事

理事 会

第8回理事会

開催日：昭和40年11月17日。場所：協会。出席者：作井副会長他32名。

会議事項

1. 国際鉄冶金会議の開催予定について
1970年に開催する予定で準備体制に入ることを決定。次回以降理事会で準備委員会のメンバーを決定する。
2. ドイツ鉄鋼協会との技術者交換に関する件
ドイツ鉄鋼協会より日独技術者の交換を要望してきたので各社に計つたところ短期的なものならよいと了承を得た。この場合一方通行にならぬようにとの意見が述べられさらに検討することになった。
3. 東洋レーヨン科学技術奨励金候補者推薦に関する件 次の2件の推薦を決定
 - 1) 東北大不破教授「製鋼温度における溶鉄および溶滓の熱力学的研究」
 2. 東大荒木教授「凝固に伴つた鋼塊の非金属介在物」

第9回理事会

開催日：昭和40年12月14日。場所：協会。出席者：湯川会長他31名。

会議事項

1. 共同研究会運営委員会報告
2. 技術講座（講演会）開催報告
12月15日 鋼中ガスの影響について
講師 今井，下川
16日 真空脱ガス法の現状ならびに問題点
講師 成田，浅野
上記講演を行なう旨報告
3. 鉄鋼生産設備能力調査委員会報告講演会開催の件
39年12月に作成，政府に答申した設備能力算定基準調査のうち来春の講演大会において製鉄，製鋼関係の報告講演を行なうことになった。
4. 次期表彰候補者選考委員委嘱の件
5. 次期役員候補者選考委嘱の件

企画委員会

第8回委員会 開催日：昭和40年11月9日。場所：協会。出席者：辻畑委員長他19名。

会議事項

1. 国際鉄冶金会議の開催予定について
1970年を予定し，準備態勢に入ることになった。
2. ドイツ鉄鋼協会との技術者交換に関する件
日独両協会の協定による技術者交換が問題となっているが，日本鉄鋼協会が全責任をもつてこれを行ない，専門家に工場を視察させることは会社にとり迷惑をかけるおそれがあるので，協会は橋渡しだけを行ない，後は会社間の交渉にまかせることになった。

3. インド金属学会よりインドにおいて鉄鋼会議共催申し入れの件

日本から多数会員がインドを訪問して会議を開き，またインドの鉄鋼業に関するシンポジウムを開きたいと Nyhjawan 会長より手紙が来ている。内容が漠然としているので真意を確かめることになった。

第9回委員会 開催日：昭和40年12月7日。場所：協会。出席者：辻畑委員長他20名。

会議事項

1. 東洋レーヨン科学技術研究助成会推薦候補決定報告
2. 台湾煉鉄股紛公司よりの問合せに対する回答（品質管理部会）の件
品質管理部会の活動状況と関連する書籍名を知らせる回答を行なう。
3. 応力測定に関する講習会協賛の件
4. 第6回工業材料展協賛の件

研究委員会

第8回委員会 開催日：昭和40年11月17日。場所：協会。出席者：今井委員長他20名。

会議事項

1. 講演会の実施について
現在予定している講演会の実施を説明した後，今後進めていくべきテーマなどにつき検討を行なった。
2. 昭和41年度補助金関係試験研究計画について
事務局より41年度に提出を予定している7件の補助金関係事業の報告を行ない了承を得た。
3. 試験高炉委員会報告

第9回委員会 開催日：昭和40年12月14日。場所：協会。出席者：今井委員長他16名。

会議事項

1. 鉄鋼技術講座その他講演会講習会の開催計画について
啓蒙的性格を含めた講演会を鉄鋼技術講座という名称で開催することを前回に決定し，その第1，2回を12月15，16日に開催するが，第3回，第4回以降の鉄鋼技術講座の講演題目，講演者につき協議した。また講座以外の講演会，講習会の開催につき話し合った。

編集委員会

第9回委員会 開催日：昭和40年11月22日。場所：協会。出席者：荒木委員長他21名。

会議事項

1. 編集委員委嘱について
富士製鉄安生浩委員転勤のため，後任に三村滋氏に委員を委嘱した。
2. 論文審査報告

3. 第52年第2号掲載論文について
4. 論文依頼について
5. 鉄と鋼第52年(昭和41年)随想予定について
6. 春季大会見学工場選定について

第10回委員会 開催日: 昭和40年12月14日. 場所: 日本鋼管高輪寮. 出席者: 荒木委員長他22名.
会議事項

第71回講演大会論文審査報告およびプログラム編成を行なった.

1 講演20分(質疑を含む)で製鉄・製鋼・加工・性質それぞれ8会場に別れ4月5日・6日・7日の3日間, 203件の講演を行なうことになった.

また, シンポジウムは, 第2日(4月6日)の午後21講演を4会場に別け, 開催することになった.

第2回寄稿規程改善小委員会 開催日: 昭和40年11月22日. 場所: 協会. 出席者: 阿部小委員長他4名.
会議事項

投稿論文および研究速報について検討.

第1回技術資料小委員会 開催日: 昭和40年11月12日
場所: 三菱製鋼九段寮. 出席者: 松下小委員長他8名.
会議事項

昭和34年以降会誌に掲載された技術資料について検討し今後どう技術資料と掲載すべきか検討した.

欧文誌編集委員会

第4回委員会 開催日: 昭和40年12月1日. 場所: 協会. 出席者: 荒木委員長他12名.
会議事項

1. Vol. V. No. 2 の講評
 - (1) 頁および柱のつけ方, Abstracts の Heading を検討する.
 - (2) 講演論文の Synopsis の英文校閲を厳しくする.
2. Vol. VI. No. 2 の原稿選定
3. 刊行予定表に従って作業を進める.

資料委員会

第24回委員会 開催日: 昭和40年11月5日. 場所: 協会. 出席者: 草川委員長他13名.
会議事項

1. B. I. S. I. トランスレーションの請求に関する件.
2. 協会ニュースの今後のあり方について再び検討した.
3. “鉄と鋼”に来年度より, UDC 分類をつけることに第23回資料委員会では一応決定したが, 果してUDC分類は, ベストであるかどうか価値はどうかなどを検討し, 次回にも再び討論することになった.

第25回委員会 開催日: 昭和40年12月10日. 場所: 協会. 出席者: 草川委員長他13名.
会議事項

1. 情報活動の範囲と規定について.
2. 協会ニュースの今後のあり方として, 以前より本委員会で討論していたが, 本委員会がとりあつかうべく問題としては, 性格が違うのではないか……企画委員会にかけて, 早急に解決する必要があるのではないか.

- (3) 本委員会の性格づけについて.

共同研究会

運営委員会

第2回委員会 開催日: 昭和40年12月14日. 場所: 協会. 出席者: 湯川会長他31名.
会議事項

1. 昭和41年度各部会事業計画および予算案に関する件
部会, 分科会ごとに作成した計画ならびに予算案を承認, これにより予算要求をすることを決定
2. 各研究部会の経過報告および今後の予定
各部会長から資料により報告
3. 条鋼部会長の交代の件
杉沢英男氏の解嘱, 浅田幸吉氏の委嘱を決定
4. 共同研究会報の発行を決定
5. 各部会への鉄鋼以外の会社の参加について
鉄鋼以外の会社が参加するときは鉄鋼各社と同様協会維持会員となることを原則とすることを決定

第2回幹事会 開催日: 昭和40年12月1日. 場所: 協会. 出席者: 山岡幹事長他24名.

製鉄部会

第27回部会 開催日: 昭和40年12月9, 10日. 場所: 厚生年金会館. 出席者: 林部会長他110名.
会議事項

1. 講演
 - (1) “小倉焼結工場生産性の推移について”
講演者 住友金属工業(株)小倉製鉄所
焼結工場長 坂本大造
 - (2) “予備還元鉍の高炉使用について”
講演者 八幡製鉄(株)八幡製造所技術部
副長 島田正利

2. 共通議題
“高炉の減産操業について”
14部の提出資料のとりまとめを次回までに富士製鉄(株)にお願いすることになった.
3. 自由議題
4. 高炉の稼働率上昇対策について
5. 焼結原料粒度と成品々質について

製鋼部会

第32回部会 開催日: 昭和40年11月10, 11日. 場所: 富士製鉄(室蘭), 日本製鋼所(室蘭), 出席者: 井上部会長他105名.
会議事項

1. 特別議題「溶銑の予備処理」: 報告は八幡八幡, 川鉄千葉, 神鋼尼崎より, Shaking ladle での脱硫や鉄源歩止, 高炉下や混銑炉前での脱硫などについて成果が報告された.
2. 一般議題「欠陥防止」には20篇余の報告があり質疑も活発であるが「大量酸素の利用」は一篇のみで

あり、このテーマもすでに「時期」がきたと考えられる。

今回の報告では、粗鋼減産に伴う溶銑過剰からの平炉の高溶銑操業の報告が目立つた。

3. 工場見学：富士室蘭の平炉・転炉工場・熱延工場 日鋼室蘭の平電炉工場、各種工作工場など。

鑄型分科会、鑄型マニュアル小委員会

開催日：昭和40年12月15日。場所：協会。出席者：岡部主査他15名。

会議事項

鑄型マニュアル作成とそのために依頼したアンケートとりまとめの扱い方について。

昭和37年に行なつたアンケートのまとめの形式に従つたとりまとめを、次回までに検討して、鑄型マニュアル作成についての特性値をえらびだすことを申し合せた。

圧延理論分科会

開催日：昭和40年11月8、9日。場所：三菱製鋼（長崎城山会館）。出席者：安藤主査他33名。

会議事項

1. 石川島播磨重工(株)の当分科会参加が承認された。
2. 高温振り試験関係
提出資料2件(日鋼, 大同)。今までに得られた結論を学会に発表し, Piriod を打つ。
3. 熱間変形抵抗
資料8件(日立, 住金, 鋼管, 八幡鋼管, 早大) 同一の配布鋼材に関する試験結果が発表された。
4. 冷間圧延関係
資料7件(鋼管, 芝共, 日立, 住金, 川鉄, 東洋) 材料, 潤滑油を同一の条件にして, 圧延速度およびロール径の影響を調べるために再度共同実験をした。
5. 三菱製鋼の見学
製鋼工場, 機械工場, 圧延工場の見学を行なつた。

鋼板部会

分塊分科会

第21回分科会 開催日：昭和40年11月25、26日。場所：八幡製鉄。八幡製鉄所。出席者：鍵山主査他70名。
会議事項

1. 鉄鋼生産設備能力算定式の見直し
幹事会社で作成した、分塊工場加熱設備能力算定式の修正式の説明を行ない、各社持帰り検討後分塊設備分科会でさらに検討し前回作成した算定式の改正を行なうこととした。
2. レキュペレーターに関する諸問題について
各社提出資料の報告検討を行なつた。
3. 工場見学
戸畑製造所第1、第2分塊工場の見学を行なつた。

厚板分科会

第20回分科会 開催日：昭和40年11月5、6日。場所：八幡製鉄、八幡製鉄所。出席者：吉田主査他55名。
会議事項

1. 特別議題「厚板工場の自動化」

10社より報告があつたが、このテーマは現在その端緒についたものであるため、満足のゆく報告資料は少なく、主査より、この部門の研究を今後さらに強化されたいと要望した。

2. 特別議題「厚板の検査について」

厚板工場での最大の問題の一つであるため、全メンバーから報告が行なわれ、討論も活発であり、全員に益すること大であつた。

3. 工場見学：八幡製造所のルール工場を3時間にわたり、熱心に見学した。

条鋼部会

大形分科会

第3回分科会 開催日：昭和40年11月9、10日、場所：川崎製鉄、葺合工場。出席者：中島主査他37名。
会議事項

共通議題として

1. 昭和40年6～8月の操業成績
2. 加熱炉の現状と改善について
(イ) 加熱炉の現状
(ロ) 加熱炉の改善策について
(ハ) 加熱炉の修理状況
3. ロール組替方法と短縮対策

および自由議題についての各社研究報告を行なつた後、第4回分科会は川鉄葺合工場見学を行なつた。昭和41年5月頃鋼管(川崎)で「ホットソーの現状と問題点能力向上対策」「製品疵の減少対策」「成品寸法管理の現状について」「自由研究」につき報告を行なう。また特別講演を部外者に依頼することが決定した。

線材分科会

第21回分科会 開催日：昭和40年11月4、5日。場所：大同製鋼(名古屋)。出席者：有沢主査他41名。
会議事項

1. 工場作業実績表
2. 品質向上能率向上に資する問題について
3. 材料別捲取温度管理
4. 出荷設備と作業管理
5. ローラーガイドの使用状況
6. ロール原単位の低減対策
7. 新設線材工場の設備概要

特殊鋼部会

第27回部会 開催日：昭和40年11月4、5日。場所：鉄連会議室。日本特殊製鋼、大森工場、三菱製鋼東京製鋼所。出席者：浅田部会長代理他63名。

会議事項

11月4日 特別議題「真空脱ガスと品質に関する研究」として

1. 富士鉄浅野氏の英国鉄鋼協会春季大会真空脱ガス会議の資料にもとづく「真空脱ガスについて」の特別講演
2. 八幡・神鋼、日特、愛知、不二越よりの研究報告

がなされた後、共通議題の「マクロ、地キズ、表面キズと製造技術の研究」についての各社報告を行なった。

11月5日

残りの共通議題につき午前中研究報告を行ない、午後より14°30'まで日特大森工場 15°00'より17°00'まで菱鋼東京製鋼所の見学を行なった。

幹事会 開催日：昭和40年12月6日、場所：協会。出席者：磐城部長他。

調 査 部 会

幹事会 開催日：昭和40年11月15日、場所：竜名館(八重州)。出席者：斎藤主査他14名。

鉄 鋼 分 析 部 会

第17回部会 開催日：昭和40年11月12日、場所：鉄鋼ビル(堺)。出席者：池上部長他44名。

会議事項

1. 発光分光分析分科会経過報告
2. 螢光X線分析分科会経過報告
3. 非金属介在物小委員会経過報告
4. 鉄鋼ガス分析法のとりまとめについて
5. 化学分析分科会の設置について
6. 標準試料について
7. 鋼中極微量ボロンの定量について
8. 見学会、堺製鉄所

発光分光分析分科会

第7回分科会 開催日：昭和40年11月11日、場所：鉄鋼ビル(堺)。出席者：池上部長他36名。

会議事項

1. 標準試料について
2. 共同実験結果の解析方法について(神鋼、在京委)
3. 高合金鋼の研究・分析例について(住金・製鋼、大同・中研、特殊製鋼、住金・中研)
4. 高合金鋼の共同研究方針について
5. 各社研究・分析例(0富士、広畑、東海)
6. 今後のテーマについて

螢光X線分析分科会

第7回分科会 開催日：昭和40年11月12日、場所：鉄鋼ビル(堺)。出席者：木寺部長他41名。

会議事項

1. 経過報告
2. 標準試料について
3. ステンレス鋼の螢光X線分析方法 JIS 原案の提出報告
4. 今後の運営について(案)
 - (1) 低合金鋼の JIS 化
 - (2) 粉体試料の共同研究

鋼中非金属介在物分析小委員会

第5回小委員会 開催日：昭和40年12月3日、場所：学会館(神田)。出席者：池上部長他12名。

会議事項

1. 第5回共同実験結果の報告
2. 非金属介在物分析法について、非金属介在物部会への答申案について
3. 各委員研究報告(八幡・技研、日鋼・室蘭研)

設 備 技 術 部 会

幹事会 開催日：昭和40年11月25日、場所：協会。出席者：木寺幹事長他11名。

会議事項

1. 部会運営方法について
2. 製鉄機械設備輸入状況調査について

標 準 化 委 員 会

第12回幹事会 開催日：昭和40年11月4日、場所：協会。出席者：木下幹事長他15名。

第13回幹事会 開催日：昭和40年11月26日、場所：協会。出席者：木下幹事長他11名。

第14回幹事会 開催日：昭和40年12月5日、場所：富士製鉄芙蓉荘。出席者：木下幹事長他15名。

第15回幹事会 開催日：昭和40年12月17日、場所：竜名館。出席者：木下幹事長他13名。

ブ リ キ 分 科 会

第3回分科会 開催日：昭和40年12月20日、場所：学会館(神田)。出席者：安藤主査代理他15名。

会議事項

本年10月フィラデルフィアで開催された ISO/TC17/GT9 の Tin Plate & Black Plate ISO-R 第4次案検討に関する出張報告が日本鋼管酒井氏より行なわれた。

また3件保留事項があり明年または明後年開催の要があるが、各国より日本で開催の希望が多く、可否につき事務局に連絡する必要がある。

機 械 用 鉄 鋼 規 格 調 査 委 員 会

第2回委員会 開催日：昭和40年11月12日、場所：協会。出席者：田畑専務理事他13名。

会議事項

前回配布した鉄鋼材料規格使用実態調査表案につき、特に機械工業関係団体委員より検討結果の報告を行なった。

結論としてこのようなアンケート調査を実施しても機械工業関係よりデータを得ることは不可能であり、第一に鉄鋼側のデータを集約し、これをもとにして機械工業側で検討を行ない結論を得る方法を採用することとした。

機 械 試 験 方 法 分 科 会

第3回分科会 開催日：昭和40年11月30日、場所：協会。出席者：吉沢主査他11名。

会議事項

機械試験方法分科会内の衝撃試験関係、ストリップ板関係の2部門の専門委員会として開催され、今後の方針につき次のように打合せた。

1. 衝撃試験関係委員として、造船協会および日本海事協会からも参加してもらう。

2. ストリップ板関係の委員として塑性加工研究会からも参加してもらう。
3. 既送のRecommendationの内容につき各委員に審議していただき、1月20日までに事務局あて意見を寄せてもらう。

第4回分科会 開催日：昭和40年12月20日。場所：協会。出席者：吉沢主査他16名。

会議事項

試験一般および高温クリープ関係の専門委員会として開催され既送のRecommendationを各委員に読んでいただきご意見を2月5日までに事務局まで寄せてもらうことにした。

また、試験一般関係では日本海事協会に、高温クリープ関係では都立大川田雄一先生に当分科会にご参加願うことにした。

普通鋼分科会

第7回分科会 開催日：昭和40年11月6日。場所：協会。出席者：木山主査他20名。

会議事項

JIS ボイラ用鋼材専門委員会の懸案事項を協議した。主な点は

1. SB56M(Mo入り)の適用板厚およびNi添加の可否
2. Cr-Mo 鋼は別規格とすること。
3. 曲げ半径を ASTM と揃えることは輸出向には望ましいが、判定基準が異なるので表現を修正する必要がある。
4. SB49 のC制限量と火力発電技術協会規格との関係調整。

バネ鋼原案分科会

第3回分科会 開催日：昭和40年11月8日。場所：協会。出席者：辻主査他。

会議事項

1. Si-Cr の件の最終確認
2. 機械的性質の数値について
3. 丸鋼の標準寸法について
4. 乙丙種平鋼の標準寸法について
5. 平鋼の寸法許容差について
6. 各条鋼規定文章の改正検討
7. その他

次回を12月15日開催し分科会としての原案を作成することになった。

高速度鋼原案分科会

第2回分科会 開催日：昭和40年11月2日。場所：協会。出席者：荒木主査他18名。

会議事項

1. 鋼種について：改正試案には、SKH 2, 3, 4A, 4B, 6, 10, 52, 53, 54, 55を載せ、SKH 5, 9の廃止番台の種類の新設を図ったが、日本工具工業会より、SKH 5, 9の廃止に難色が示されたので、次回までに同会の技術委に正式意見をとりまとめさせ本委で再度検討することとした。
2. 寸法公差、脱炭深さ、熱処理温度については一部修正が加えられ試案の内容が承認された。

熱処理用語原案分科会

第3回分科会 開催日：昭和40年11月20日。場所：協

会。出席者：佐藤主査他15名。

会議事項

委員会内のA, B, C 3グループのうちA, Bグループで審議された用語の発表および検討が行なわれ、グループの用語が決定された。

時間の関係よりCグループの用語は次回審議することになった。

第4回分科会 開催日：昭和40年12月11日。場所：協会。出席者：佐藤主査他14名。

会議事項

1. A, B, C 3グループのうち、Cグループ用語案を審議し、これを決定した。
2. 言葉の使い方としては、文部省制定による方法によらず審議を進め答申直前に、これを改めることにした。
3. 次回からは、3グループの用語に説明を付ける件を審議する。
4. 長谷川委員の都合により、Bグループの小丸丸委員にCグループへ移っていただきCグループのまとめ役を引受けていただく。

クリープ委員会

第3回委員会 開催日：昭和40年12月8日。場所：協会。出席者：三島委員長他26名。

会議事項

1. クリープデータシート作成作業方案(案)に関する件
2. 41年度着手すべき試験鋼種とサンプル提供会社選定に関する件
3. JIS「クリープ試験法およびクリープ破断試験法」改定原案に関する件
上記のうちクリープ試験法および同解説試案について。
4. 内圧円筒クリープ試験機仕様作成に関する件
5. 昭和41年度クリープ委員会予算概算要求に関する件

第4回幹事会 開催日：昭和40年11月25日。場所：協会。出席者：俵部会長他11名。

会議事項

第3回クリープ委員会議題に関し検討を行ない、次の協議事項については各分科会の審議経過を確認した。

1. クリープデータシート作成作業方案
2. 試験鋼種サンプル提供会社の選定
3. JIS 改定試案(Z 2271, 2272)
4. 内圧円筒クリープ試験機の仕様作成

業務部会

第2回部会 開催日：昭和40年11月2日。場所：協会。出席者：俵部会長他9名。

会議事項

下記の議題について検討を行なった。

1. 依頼試験費事前調査の取りまとめについて
2. 試験対象鋼種のサンプル依頼先選定について

第3回部会 開催日：昭和40年11月13日。場所：協会。出席者：俵部会長他11名。

会議事項

前回に引続き、試験鋼種のサンプル提供会社の候補については、あくまで現在の生産実績をもとに検討を行なうことを確認し、各鋼種ごとの候補会社を選定した。これをクリープデータシート分科会に提示することとした。

ISO 改訂分科会

第1回分科会 開催日：昭和40年11月19日。場所：協会。出席者：平主査他22名。

会議事項

1. 主査より、工技院から当委員会に現行のクリープ試験クリープ破断試験法 (JIS Z2271, 2272) の改訂委託があつたので、分科会に先立ち小委員会を3回開催し、外国規格と JIS との比較対照研究を行ない、それをもとに試案を作成した旨報告があつた。試案の最大の焦点は旧法の1法、2法を廃止したところにある。
2. 引張クリープ試験法改正試案審議、小委員会作成の試案を逐条審議し、極く一部を除き、訂正、承認を完了した。
次回分科会ではクリープ破断試験法の試案を審議する。

クリープデータシート分科会

第2回分科会 開催日：昭和40年11月18日。場所：協会。出席者：田中主査他10名。

会議事項

1. 試験対象鋼種ごとに再検討を行ない1部修正を行なった。
2. 鋼材提供候補会社については第3回業務部会の報告を了承した。
3. クリープデータシート作成作業方案の検討を行なった。

内圧円筒クリープ試験機分科会

第2回分科会 開催日：昭和40年11月18日。場所：協会。出席者：平主査他11名。

会議事項

内圧円筒試験アンケート集計表をもとに、内圧試験および内圧試験機について各社別に検討を行ない、材料試験部における建物設計上の判断の資料を提供した。

試験高炉委員会

第6回委員会 開催日：昭和40年11月5日。場所：竜名館(八重州)。出席者：辻畑委員長他14名。

会議事項

1. 昭和40年7月の第5回委員会以降の活動についての経過報告が山本主査より行なわれた。
2. 第16次操業試験結果をともに3月実施目標の第17次操業の幹事会案に対する検討を行なつたが予算面で窮屈であるし3月では時期尚早であることから7、8月に実施を延期することにきまつた。

国内炭コークス製造試験委員会

幹事会 開催日：昭和40年12月11日。場所：協会。出席者：久田委員長他10名。

会議事項

議 題

- (1) 実炉試験中間報告
- (2) 設備保全の件
- (3) 報告書作成の件

基礎試験により十分な検討を行なつた後本年9月より開始した実炉試験は12月20日に終了した。試験終了に伴う設備保全の問題報告書作成の打合せを行なつた。

鉄鋼基礎共同研究会

非金属介在物部会

第1回部会 開催日：昭和40年11月24日。場所：協会。出席者：荒木部会長他。

会議事項

1. 幹事会報告：部会の運営に関する内規の骨子を検討した結果、部会長に荒木透氏を推薦、幹事長に内山郁氏を推薦、それぞれのご承諾が得られた件などが報告された。
2. 溶製担当6社からの出鋼報告を内山幹事長がとりまとめ、発表された。これを基に試材分与を希望する大学、会社関係者にアンケートを求めることとした。
3. 来年度の部会の研究計画を検討し、かつ政府の補助金を得て活動する場合のテーマについて検討した。これについても12月10日までにアンケートをとり、適当なテーマを選定することにした。

溶鋼・溶滓物性グループ準備委員会

開催日：昭和40年12月3日。場所：協会。出席者：斎藤世話人他19名。

会議事項

溶鋼・溶滓物性グループは今後の活動方針として、溶銑、溶鋼、溶純鉄を含めた溶鉄および溶滓の高温における諸物性の測定を行なうことを目的とすることを確認し、具体的にいかなる物性を測定するかをアンケートによりまとめ、その結果を参考として決定し、同時に委員および幹事も選任することを話し合つた。

次回、昭和41年2月23日 13:30~

議題 テーマの選定、委員、幹事の選任

鉄鋼の照射試験研究合同委員会

第15回合同委員会 開催日：昭和40年11月15日。場所：協会。出席者：長谷川委員長他27名。

会議事項

1. 1次分は11月より12月上旬にかけ、2次分は1月より2月中旬にかけ照射される予定。
2. 東海炉圧力容器鋼材の照射脆性試験結果、YND照射脆性試験結果、照射脆化に関する基礎研究の3論文の報告。
3. 第3次分試験材本数、予算案の審議を行なつた。

立会者連絡会 開催日：昭和40年12月9日。場所：神戸製鋼(深田寮)。出席者：長谷川委員長他13名。

会議事項

1. 第1次分の照射は12月5日に成功裡に終了し、第2次分は1月中旬より3月中旬にかけて照射される予定。

2. 立会者用の instruction について審議および検討を行なった。
3. 各社および先生方の立会期間について打合せたが詳細については2次分照射時期が確定してから再検討する。

1. 39年度応用研究共同試験実施について。
クリープ破断時期のバラツキの検討(試験項目Ⅱ)の中間報告が行なわれたが、特殊製鋼外の実施場所では試験終了が41年3月上旬までかかることが明らかにされたので、終了期日12月末日を41年3月31日まで延期することが了承された。
2. 40年度共同試験計画について
40年度試験計画は組合試験機のほか自社手持試験機を用いるので、試験片ネジ径調査を行ない、39年度残材をもつてどの位試験片が取れるかを検討した。

クリープ試験技術研究組合

技術委員会

第34回委員会 開催日：昭和40年12月7日。場所：協会。出席者：平委員長他21名。
会議事項

新入会員氏名

(昭和40年12月1日～12月31日)

維持会員		石原 豊	住友金属工業(株)小倉	守富 慧	日新製鋼(株)周南
(財)野口研究所		音谷 公行	〃 〃	高野 知明	理研製鋼(株)
B.H.P. By Products Pt. Ltd.		森戸 宏有	〃 〃	高橋 宏元	関東特殊製鋼(株)
正会員		水主 孝一	〃 和歌山	小林 俊三	日本ステンレス(株)
中村 照雄	八幡製鉄(株)戸畑	野田 益弘	〃 鋼管	住友 美孝	愛媛大学工学部
福谷 建次	〃 〃	亀田 忠夫	日本特殊鋼(株)	学 生 会 員	
藤永 実	〃 〃	寺西 春男	〃	坂井田 靖夫	早稲田大学理工学部
山本 志郎	〃 〃	平田 修司	〃	新井 正昭	〃 〃
岩野 耕一	〃 技研	松野 義弘	〃	植野 晏生	〃 〃
金丸 和雄	〃 〃	稲垣 修一	大同製鋼(株)中研	佐久間 三生	鉄鋼短期大学
長田 修次	〃 〃	柳沼 隆喜	〃 〃	高橋 均	〃
吉住 豊	〃 〃	長村 繁雄	東洋鋼板(株)下松	三沢 俊平	茨城大学工学部
池田 稔	〃 八幡	根本 忠志	〃 〃	寺内俊太郎	関西大学工学部
入江 芳弘	〃 〃	黒田 哲郎	(株)日立製作所日立	眼目 昭雄	富山大学工学部
日渡 惺朗	富士製鉄(株)広畑	平井 滋郎	〃 〃	辻野 文三	近畿大学理工学部
溝口 述史	〃 〃	大塩 幸男	山陽特殊製鋼(株)	宮崎新八郎	九州大学工学部
植村 治	〃 中研	阿部 信男	山本重工業(株)	渡辺 芳直	大阪大学工学部
門 智	富士製鉄(株)中研	木村 郁男	東洋工業(株)	樋村 淳	千葉工業大学
高宮 克弥	〃 室蘭	岩政 信夫	日本鋼管(株)水江	倉本 広明	大阪府立大学
和田 修三	〃 釜石	高谷 元啓	川崎製鉄(株)千葉	松田 謙治	東北大学工学部
外 国 会 員			Mrs. D. A. Clegg	England	
W. J. Stewart	Canada		金 鶴 起	韓国	
Robert A. Franzizi	U.S.A.				